

「人が育てる環境（第三分科会）」について

1、どういう問題意識をもって分科会活動をスタートさせたか

環境のよい箕面らしさは府民共有の財産で市民の誇りです。国定公園森林などの恵み（生物昆虫の宝庫）は、ホタルも棲息する川や山麓保全の諸活動・環境活動が環境を支えている。一方、森林・市街農地や都市の緑が減り続ける都市づくり問題、温暖化と気象変動・災害多発の恐れもある。

市政の諸対策や環境市民運動が展開されているが、今後、10年の5次総合計画には、森林を保全整備し、快適環境を真に改善していくまちづくりを柱とする市政政策と運営へ市民の意見を山積みしたい。市民が暮らしよい街に、後世にバトンタッチしたい・・・。

2、どのように取り組んできたか

市民の環境活動の豊かな人々や進んだ情報公開で関係資料、行政の第一線現場の職員・サポートスタッフから学習討論型で取り組んできました。市民と行政現場こそ情報の宝庫だと強い印象を受け、まちの再生と緑被率の都市環境に新しい知見を学び今後10年の課題として浮上しています。

市民が大切にされ人（行政・市民など）が育てる快適環境の課題について、「ほっとテーブル(12/21)」のテーマ『地球温暖化に、市民はどう取り組むか』に参加しました。市民会議に加われ議論が豊かに活発化しまとめていくのが大変でうれしい悩みです。

3、現時点でのまとめ（課題、方向性、取組アイデア）

「将来の市民の財産を残す(仮称・・・)」

*箕面らしさ *公共性・公益性 *市民・行政

<課題と4本の柱>

(1) みどりと環境の都市づくり、乱開発の防止

緑被率は都市化の波で減、十年先も現水準の緑地率確保はどうするか、大規模開発の見通しの為に、財政・環境(CO2削減・吸収)アセスメント

(2) 環境負荷の削減と資源循環システム

生活ゴミ資源・減量リサイクル、行政のコントロール、環境の先導都市へ環境負荷削減で得する暮らし環境に貢献、エコ住宅・施設の管理・改善
増え続けるマイカー環境負荷お交通弱者の増加を解決する公共交通対策の検討

(3) 野生生物（動物、植物）景勝地等の保全と共生・再生

ニホンザルや滝のサンショウウオ, 河畔のホタルなど・・・人との共生環境を保全
自然及び景勝地や文化史跡, 樹木など・・・の指定又は未指定の自然・景勝地記念
物の直接周辺地域並びに歴史的地域や田園まで保全域に

(4) 自然災害・人為災害の軽減と環境危機管理

大地震や気象変動と豪雨災害危険性の増大, 人の命を守る安全対策・・・
災害の理解が少なく、防災の科学基本認識を生かした防災計画の確立・普及・・・
水循環管理, ポンプ揚水加えても細る大滝, ダム湖底のヘドロ化・大雨で環境ピンチ

4、今後の活動予定

今日までの会議の成果をもっとみんなで深め広めろため次回から、担当職員やサポ
ートスタッフの参加も得て「1、みどり都市・・・」から順次検討を行なう予定で、場合
によって現場検討、意見聴取しご批判を頂き提言の素案づくりへ・・・と。

10年先、どうあるべきか(課題と方向性、* 議論と交流、集約資料から「到達点」として作成)

「将来の市民の財産を残す(仮称・・・)」第三分科会

; 課題(問題) ; 方向性 * ; 新知見等

1、『みどりと環境の都市づくり、乱開発の防止』

都市人口増で良好な住環境の悪化と都市計画

何を本気で・・・都市環境と都市計画、緑被比率は都市化の波で減少している
広い住宅地に近年, 3 ~ 6 戸建築の敷地で 10%緑地にしても良環境は後退する
10年先も現水準の緑地率確保のために、市街化区域の緑地を推進
緑多い屋敷(高齢者一人暮など)が、数戸分譲地建築で各敷地 10%緑地・環境後退
高齢者などの公共的福祉住宅で緑を理, 温暖化防止景観環境地域財産を守る
緑施策の考えで用途指定では、用途指定で建ぺい率 40%だと狭くて家建たない
今後の十年, 築後数十年の集合住宅の建替高層化の事業計画による住環境の後退
環境守る建ぺい率と容積率の見直し, 環境優先都市計画法と建築基準法改定
住宅等ストックは, 劣化しつつ危険・維持工事に金がかかり, 大建替時期に入る
高層化は住環境破壊を招き, 同程度だと住人大負担で, 建直でなく補修補強の検討
緑山なみ借景が素晴らしく好き、最近, 高い建築物ラッシュで、山なみ借景・景観問題
区画整理・商業地区に高い建築物が建つ法的 OK だが、但書, 高度地区で高層建築可
環境(建ぺい率 40% ~ 80%・容積率 30 ~ 60%)を守るのか人口伸びの抑制か
人口密度規制で人口減らすと国の計画に背を向けるが、自治優先で検討

森林や山麓緑、都市農地や緑の社会・公益的財産を守るルールがない。

細やかな緑の保持，借景の山麓・緑，個人財産を守る制度，

公益的機能を援助する優遇税制などの検討

自然景観の歴史文化財と都市開発の検討

大規模開発に公園を設置推進し、都市計画公園の到達点は、整備目標の40%と低い未利用地の公園化検討もなく処分し、子供・高齢者に身近な都市公園整備が遅れる

高齢者社会にふさわしい都市計画公園としても事業計画の確立

安全と環境に貢献していた農地が14年間に64ha減り流出・水循環を変えた

地域の公益的機能サービスに見合う制度、農業振興・保全総合計画

里山の整備は、短期間で結果は期待できない。森林の荒廃が心配

里山・森林活動の現場近くまで、参加しやすいバス運行などを

過去の大規模(北摂霊園と箕面川ダム)乱開発で良好な自然宝庫が縮減した

自然と緑の再生で生物にやさしいロックフィルダム緑化・霊園の森林化

水と緑の健康都市の二期計画と三期計画は、温暖化防止・環境守る為に休止に

社会情勢を見定め、温暖化防止や財政等のアセスメントを行い検討

地場産業の再生、自然休養府民の森(仮称)安全な箕面北部まちの再生計画

社会情勢を見定め、彩都の厳しい土地区画整理事業は、環境・事業採算性を再度検討、

複数案の民主的で効率的な具体的な事業検討を関係機関と協議

西部区域の一括宅地造成からムダの少ない収束しやすい段階的事業計画を推進

* オランダの人口5万人都市では、

「ここからここまで保全する、持続可能なまち、これ以上の建築許可しない」

* 英国の住宅地に点々と公営住宅が点在

「住宅建築物は、その高齢者の暮らしを守り、あとは公営住宅として税金を投入し、

ストック(古い文明の固まり)が保存され歴史文化の町並みを形成し続けている」

2、『環境負荷の削減と資源循環システム』

学校の耐震化計画は、単独目的事業で今の環境に求められる課題に不十分

安全で良好な環境の保全と創造で総合グリーン校舎校庭計画事業

この10年間の環境対策は、市民・事業者の巻き込みが市として不十分

市民向け環境情報をもっと発信し、市自ら先頭に立つ先進事例を拡げる

太陽発電や流出抑制・水循環施設が少なく、よい事業の未着手の公共施設が多い

その成果を拡げるために、基本計画・助成制度を確立し市民普及

太陽発電(自家発・公共発)の環境負荷削減の事業にブレーキ

経済的に得する自家発・公共発の促進・助成普及計画

環境負荷の大きな従来型工法が続き、使用木材も市外・外来木材資材

ベンチや塀等に木材を用い森林の地産地消で森林の間伐や整備

快適環境施策には、環境先進自治体の水循環・流出抑制の施策がない
森林のかん養水源や緑被率、流出係数抑制で水循環の推進
東西交通など不便なバス交通網が過度なマイカー環境負荷の一つの要因
高齢者社会にふさわしく環境に優しい新しい地域網小型バス交通
クリーンセンターは、800度運転ダイオキシン対策でゴミを燃やし続け、ごみ減量不向き
ごみ減量に対応できる、ごみ焼却システムの検討
ゴミの減量の呼びかけ、生活ゴミに関するシステムをもっと市民に、

3、『 野生生物（動物、植物）景勝地等の保全と共生・再生 』

今どきの大規模プロジェクトは、中長期課題の温暖化防止・住環境再生の推進を困難化
温暖化防止へ森を守り生物(オオタカやシカ, ホタル等)棲息の森再生
昆虫や生物の棲みか等の安易な一斉草刈りで、その虫や生物棲息地を破壊
昆虫や生物の棲みかを守りその移動地を確保する草刈り方法の復活
河畔林が減り棲息する野鳥や水鳥・川魚の環境等を破壊し、ホタルも心配
地域の水辺と緑の河畔林を再生しホタルを守り原風景生物棲みか再生
オオタカやクマタカやニホンザル、滝のサンショウウオ、河畔のホタルなど
豊かな自然生物の保護、二期三期開発の休止検討、蛍保護条例等
生息地が開発で減り餌も減り、農作物を荒らす野生動物の問題が深刻
人と野生野獣の共存を目指す管理計画には住民とともに策定
景勝地・史跡やその周辺の開発の波が押しよせ、景勝・史跡地の景観が後退
景勝地・史跡やその周辺の土地利用計画は環境考慮計画対策

4、『 自然災害・人為災害の軽減と環境危機管理 』

不動産売買の重要説明事項の地盤情報などの公表が遅れ、構造地上建物に市民居住
市民の安全を守るため震災に弱い埋立地・盛土・断層等の地盤情報の公表
上町断層帯地震によるがけ崩れ、地盤災害、池堤防等の被害予測データが不足
大震災から人の命をまもりけが人をなくす安全なまちづくり計画
防災センター公的建物・避難建物の耐震化、住宅の耐震化(せめて一部屋)
高層建築の耐震免新構造の大きな揺れによる怪我人や死者を出さない検討
彩都箕面地域の大規模埋め立て造成帯の地震リスクを考慮した土地利用用途か
阪神淡路の教訓を生かし、土地利用計画の見直し、緑を増やし安全なまちに
地球温暖化の気象変動（豪雨増加）や都市の過密化で流出機能拡大し災害リスク増
防災アセスメントは浸水約 7500 戸土砂災害約 330 戸 1070 人と被害予測が現実化
総合的な治水対策で、大規模工事の排水路整備より、水循環資源活用対策

バリアフリー勾配の二倍超える急坂道や歩道のない狭い道に車が増え事故が心配
交通事故等による負傷者ゼロ・死者ゼロへ、人と環境にやさしい手段・対策
箕面の土砂災害危険ヶ所は、土石流 16ヶ所、地滑り 1ヶ所、急傾斜地 55ヶ所もある
気象変動により災害リスクが固まり、現場に危険表示や命をまもる安全対策
奥山川溪流はトンネル湧水で山斜面の崩落が進み、豪雨による土石流災害危険
水枯れ対策や治山対策を事業者に求め、避難対策の充実
トンネル湧水のポンプ循環水質には、ヒ素が混入し千里川水質基準超え、用水にも
山深く眠っていた鉱毒を呼びさました事業者に対策求め、安全まで周知
箕面川ダムが出来て、溪谷の水辺奇岩に薄い泥汚れで、清流が後退している
ダム湖に堆積するヘドロが大雨で流出が要因、国定公園を守る対策

公共建物の耐震建替えは、耐震の単独事業で環境対策が少ない
地域の環境や、雨水循環、非難場所など防災に役立つ総合計画事業
国道や府道の雨水排水がその設計超過降雨(豪雨)で下流域の住宅ちに浸水
流せば水害、溜めれば資源。気象変動に対応できる対策を要望
クモの糸のような多電線は景観を悪くし、危なっかしい傾きかけた電柱もある
管理者の責任で、電柱の地中化と緊急安全対策
防災施設があるがその対策を上回る豪雨や台風の襲来に街は大丈夫か
警報発令時のハザード区域高齢者等の細(毛布等)かな避難対策
「短時間集中豪雨」「限界降雨予報」等のハザード域の市民対策は万全か
防災対策を計画的に進め、適切な防災情報の提供で、自助・共助を促進
再び審査を木造建築物二階建 500m²以下、建築主事の構造審査を必要なし、心配
全建売建築等も偽りなくす審査体制を確立し、効率的な確認申請許可

2008年1月21日 文責；前川